

昭和 52 年度  
(1977)

## 巖冬期黒部横断

昭和 52 (1977) 年 12 月 16 日～1 月 9 日

1977 年度の冬山は当初からオール信大で、信州から日本海を目指す巖冬期黒部横断を、と心密かに期していた。上級生の数、技倆、および経験を鑑みての判断だった。

夏合宿は前年同様劔岳で行ったが、伊那松本としては初めて熊の岩に BC を置き、チンネ、ハツ峰、池ノ谷のみならず小窓尾根池ノ谷側壁、源次郎尾根平蔵谷側フェースの登攀も行った。さらに、リーダーの特権で、個人的な課題として残っていた東大谷コマクサルンゼを 6 年目の吉田さんと組んで登攀した。コマクサルンゼはほとんど登攀されることもないためルートは荒れていたが、ルンゼ上部からは三本槍正面壁が聳え立ち、壁の岩肌は手が切れるかのように鋭かったことが印象に残っている。

冬合宿の検討会は秋の個人山行とも平行して松本、長野で行った。リーダー会での討論では、最初は戸惑いもあったが同期の二俣、長野・上田リーダーの山本(章)が前向きであり、大きな反対もなく計画作成にかかった。本隊は宇奈月より櫛平に入り、北仙人尾根を登って池ノ平小屋往復とし、リーダーは山本(章)にお願いした。そのかわり、チンネを登ってもらう、という条件にした。一方、横断隊のリーダーは二俣に頼んだ。僕自身は、計画立案自体から個人的には黒部を横断できれば十分、と考えていたので横断隊として黒部を渡り、本隊とともに北仙人尾根を降りることとした。池ノ平からは上級生による劔岳本峰アタックとチンネの登攀を予定し、横断隊はメンバー 4 人中 2 名が交替することとした。合宿の全日程が予備も入れると 30 日近くとなるため 11 月初めに 3 年生中心で池ノ平冬期小屋へのデポ上げを行い、プレ冬合宿も冬合宿の予行を兼ねてオール信大で行った。

12 月 16 日、本隊のメンバーに見送られて横断隊松本出発。横断隊には吉田、藤元の 2 名が五竜までのサポートとして参加してくれた。16 日は遠見尾根で宿営、翌 17 日猛吹雪の中、五竜冬期小屋に入った。サポートの二人は荒天の中を下山。翌 18 日からは猛吹雪が吹き荒れ、5 日間連続の沈殿となった。当初は馬鹿話をしあっていたが、さすがに 3 日目頃からはネタもつき、ひたすら寝て飯・酒と雉打ちの時だけ寝袋から抜け出す生活圏半径 10m の毎日となった。23 日、やっと快晴となり寝過ぎと飲み過ぎで鈍った体で五竜を越え、東谷尾根下降にはいった。25 日、最後の断崖を 40m、10m の 2 回の空中懸垂で下降し、黒部に降り立つ。仙人ダムの地点で、仙人谷はザイルを出して徒渉し黒部を横断、対岸の雲切尾根に取りつく。今でも思い出すのは、当初の予定通り雲切尾根末端の断崖から取りつこうとしたところ、二俣がこんなところルートに選んだら雪崩にやられる、と烈火の如く怒りだしたことである。普段冷静なだけに意外というか驚いたが、確かに危険な斜面であるのは事実なので暫く黒部上流に遡行し、若干傾斜が緩くブッシュがでていいる斜面から取りついた。傾斜が緩い、といってもトップは空身で全身埋もれる程のラッセルであり、所々ザイルをフィックスして登高していった。この間、東谷下降中に 1 日晴天になっただけで天気は一貫して雪～吹雪と荒れていた。今では考えられない程の大きさの無線機を携行していったが、本隊と連絡が取れたのはその晴天の日、1 日だけだった。28 日、ガンドウ尾根経由、仙人山を越え池ノ平小屋

へ。仙人山手前より晴れ間が望めるようになり、本隊も偶然に同日池ノ平小屋に到着し夜は大宴会となった。山本からは一人 40Kg 以上で歩いた黒部溪谷鉄道、樺平からのダブルボッカの苦労話を散々に聞かされ返す言葉もない。翌 29 日は、後になって振り返れば最後の晴天だったが、全員で冬期小屋の整理と上級生による池ノ平山からの偵察に当たった。翌 30 日は早朝雪のため劔岳アタック中止としたが、その後雪がやんだため 1、2 年生を池ノ平山まで連れて行く。31 日はこの時期に珍しく雨のため沈殿、日程の関係でチンネ登攀は中止と決定。開けて 1 月 1 日、劔岳アタックに向かうも、視界があまりに不良のため池ノ平山まで引き返す。翌 2 日、横断隊を除く 5 名の上級生で劔岳に向かう。連日の悪天候のため足場が悪く、小窓王南壁直下ではザイルを張るなど時間を取られ、5:40 小屋発 - 劔岳本峰 13:43 - 小屋 22:30。最後は完全によれきり、心配して池ノ平山に登って来てくれた搜索隊のメンバーに迎えられて小屋に戻った。3 日は沈殿。4 日、劔岳から早月尾根を下降する横断隊と分かれ本隊とともに北仙人尾根を下る。日程的には横断隊が先に下山すると思われたが、本隊が下山した 7 日時点で戻っておらず、9 日にやっと下山してきた。さんざん心配かけさせやがって、と二俣に愚痴ったら、何、早月で吹かれたんで雪洞にこもってたんだ、と彼らしく飄々とかわされてしまった。

今から思い返せば、4 年前のオール信大による劔岳北方稜線縦走直後に入部した僕らの世代の、僕らなりの総力を結集した山行だったと思う。記録係の 3 年生が、その後退部したため報告書が出ず幻の山行記録となってしまったことが本当に悔やまれる。報告書が出なかった割には国内の山岳界からの評価も高かったようで、黒部の衆からせつつかれてるんだけど何とかならんか、など卒業後も二俣からはたびたび催促があった。メンバーにも恵まれ、自分で言うのも変だがいい人選ができたと思う。山本は本隊のリーダーという地味な役を、ご褒美のチンネ登攀が駄目になっても文句一つ言わず明るく勤めてくれたし、二俣は沈着さと慎重さで横断隊を最後まで引っ張ってくれた。そして、これが僕にとっては二俣との最後の山行になってしまった。

個人的には、この年度は黒部横断のみならずこれまで自分の内に抱いていた山行をいくつか完遂できた年でもあった。3 月の積雪期黒部源流下降から氷結した黒部湖を渡って黒四ダムへの山行、5 月連休の荒沢奥壁 - 鹿島槍北壁、同じく水晶東面の登攀、夏から秋にかけては主に吉田さんと組んでの屏風岩東壁青白ハング緑ルート、同北壁 JECC ルート、そして紅葉の中での甲斐駒赤石沢ダイヤモンドフランケ A - B から奥壁左ルンゼへの継続登攀と今思い出しても充実した山行を重ねていた。同様の傾向は他の部員も同じであり、部員全体の中にあつたより困難な山行を求める姿勢が、そのまま冬の黒部横断に結実したように思う。大学山岳部全体が衰退傾向にある現在、冬の黒部横断は、そういった意味では現代風の登攀からは古風かもしれないけど、少なくとも同時代を生きた人間の間では胸を張り、誇りを持って語れるものだったと思う。

CL 師田 信人

## 参加メンバー

CL 師田信人 SL 山本 章 (教育) 二俣勇司 土田 章 (繊維)

吉田秀樹 藤元治朗 瀬戸由則 (工) 片山博彦 箕田俊晴 (繊維) 下田 章 中嶋岳志 (教育)

竹ノ内秀実 (工) 田中誠司 内川 健 加藤喜章 島谷 寿 山本雅大 吉野敏昭 (工)

山田弘二 (繊維)

横断隊：PL 師田信人 二俣勇司 片山博彦 箕田俊晴

横断隊サポート：吉田秀樹 藤元治朗

早月尾根隊：PL 二俣勇司 箕田俊晴 下田 章 中嶋岳志

本隊：CL山本 章 SL土田 章

以下メンバーは横断隊及びサポート隊除く全員

## 計画概要

秋に池ノ平山冬期小屋にデポ山行実施。

本隊（12/18 入山）は宇奈月より樺平經由北仙人尾根より池ノ平へ。

横断隊（12/16 入山）は遠見尾根より五竜を越えて東谷尾根下降、黒部横断後雲切尾根登攀し池ノ平で本隊と合流。

合流後上級生による劔岳アタック及びチンネ登攀。

その後横断隊のメンバーを一部入れ替わり、横断隊は劔岳本峰經由早月尾根下降。

本隊は北仙人尾根往路下降。

本隊実働 13 日、予備 7 日

横断隊実働 8 日、予備 7 日

早月尾根隊実働 4 日、予備 3 日

仙人山より劔岳、チンネアタック実働 3 日、予備 5 日

最終下山予定日 1 月 13 日

黒部横断隊入山 12/16、本隊入山 12/18

本隊下山 1/07、早月隊下山 1/09

（以下、記録係の個人的事情により報告書でなかったため師田個人記録に基づく行動概要）

12 月 16 日 雨のち雪：松本から神城經由西遠見 TS

12 月 17 日 雪：TS から五竜小屋まで。サポート隊の吉田、藤元と別れる。

12 月 18 ～ 22 日 風雪のため五竜小屋沈殿。

12 月 23 日 快晴：五竜小屋より五竜岳、その後東谷山を経て東谷尾根 2,100mTS

12 月 24 日 雪のち曇：TS より東谷尾根 1,600mTS

12 月 25 日 雪：TS より黒部川に下降。仙人ダムへ。黒部へは 40m、10m の空中懸垂で降り立つ。

12 月 26 日 雪：仙人ダムより黒部川徒渉し仙人



● 12/26 仙人谷徒渉  
先頭から二俣、片山、箕田（撮影師田）



● 12/27 雲切尾根より黒部川を見下ろす（撮影師田）

谷經由雲切尾根 1,300mTS。雲切尾根取り付きは胸までのラッセルで急峻な斜面に登攀。

12 月 27 日 雪：TS から状況に応じてザイル使用して雲切尾根 1,700m

12月28日 雪のち快晴：TSよりガンドウ尾根合流点(南仙人山)、仙人山を経て池ノ平小屋へ。この日本隊も池ノ平小屋到着し合流。夜は大宴会。

12月29日 快晴：冬期小屋の整理及び上級生による池ノ平山までの偵察。

12月30日 雪のち晴：気象判断の甘さで行動できず。1年生池ノ平山へ。

12月31日 雨：沈殿。気象状況及び氷の状態よりチンネ登攀断念。

1月1日 雨のち雪：上級生による劔岳本峰アタックは悪天のため池ノ平山より引き返す。

1月2日 雪のち曇：上級生パーティー本峰アタック。雪の状態悪く小窓通過に手間取り心配した留守隊に池ノ平山まで迎えにきてもらったの帰還だった。

池ノ平小屋 5：40 - 本峰 13：43 - 池ノ平小屋

22：30

1月3日 雪：沈殿

1月4日 曇のち雪：早月隊と別れ本隊は下山開始。北仙人山直下 TS。

1月5日 雪：TSよりオリオ谷コルを経て1,700mピークに TS。

1月6日 雪のち曇：TSより坊主山を経て櫛平へ。

1月7日 雨：櫛平より黒部溪谷鉄道線路(ほとんどがトンネル)上を歩いて宇奈月へ下山。当日中に松本に。

本隊より先に下山しているはずの早月隊が戻っておらず心配したが、風雪のため早月尾根で閉じ込められており1/09帰松。

以上、1977年度冬山合宿は当時の信州大学山岳会の総力を結集して厳冬期黒部横断を無事予定通りに完遂した。



● 12/28 仙人池より劔ハツ峰を背景に左から師田・片山・箕田 (撮影二俣)